

平成30年度千葉県感染症対策審議会麻しん・風しん対策部会 議事録

- 1 日 時 平成31年3月5日（火）午後6時45分から7時32分まで
- 2 場 所 千葉商工会議所13階 小会議室
- 3 出席委員（8名中7名出席）
小川委員、黒崎委員、白澤委員、新委員、西牟田委員（部会長）、馳委員、
深山委員（五十音順）
- 4 会議次第
 - （1）開会
 - （2）議事
 - ア 会長の選出について
 - イ 麻しん・風しんの発生状況及び対策について
 - （3）その他
 - （4）閉会
- 5 議事概要
 - （1）会長の選出
千葉県行政組織条例第30条の規定により会長には西牟田委員が互選により選出された。
 - （2）麻しん及び風しんの発生状況と対応について
 - 事務局説明
資料1、2により、事務局から説明
 - 意見・質疑応答 麻しんの発生状況と対策について

（意見・質問）西牟田委員

7枚目のスライドを見ると、2期の接種率が低い。これを持ち上げないといけない。就学前の啓発など工夫はされているが、さらになんとかしないといけない。このことについて、委員の皆様、いかがでしょうか。

(意見) 新委員

2期の接種率は、市町村によって随分違っている。

市町村によっては、接種率がほぼ100%のところもある。

今後、例えば教育委員会への働きかけなど、認識を高めるような啓発を県でしっかりやっていただく必要があるのではないかと。

(質問) 馳委員

0歳児の発症について、出産後、1、2ヶ月以内に発症する事例は、母親に免疫がないことが原因であろうが1期の予防接種実施前の事例について、1歳に近い月齢なのか否かで状況が異なってくるかと思われる。

このあたりは、どのような状況であったのか。

(回答) 事務局

1歳未満で発症している事例では、月齢6ヶ月未満、6ヶ月以上と半々である。

(質問) 馳委員

トラベルクリニックで、診察している際に海外渡航前の方、例えば東南アジアに移住されるような方には1歳未満であっても選択肢を提示して希望がある場合には、同意をいただいた上で予防接種を推奨している。

この場合は、定期接種という扱いにはならず、かつ1歳以上になってから2回目の接種を、ということになるということでしょうか。

(回答) 事務局

そのとおりです。

(質問) 黒崎委員

定期接種の話があったが、県ではどのくらいのMRワクチンを確保できるのか。

沖縄の麻しんの流行時期と重なって松戸でも麻しんが流行した。

その際、松戸ではMRワクチンの入手が厳しい、というような話があった。

この点、どうなのか。

(回答) 事務局

国から発出されている文書と実際の流通状況は、偏在などにより地区によって印象が異なる可能性はあるが、国からは定期接種分は確保されている、加えて、千葉県には、風しんの発生状況を考慮して通常量の8割増しで入荷される、との情報が入っている。

卸売販売業者からも例年より多く入っている、との情報を聞いている。

(質問) 黒崎委員

ということは、定期接種の180%分のワクチンが入ってくる、ということだが、逆に、たかだかその程度か、ということになるのではないか。

というのは、お母さん方でも2回接種されていない方もいるし、お父さんについても同様、加えて6ヶ月以降1歳未満の方の中で接種希望があった場合、それで足りるのか、と心配になる。

沖縄で流行した際には、県として1歳未満にも予防接種を勧奨し、かなりの接種者数であったと思うが、千葉県としては180%で対応できる、ということか。あるいは、もう少し要求する体制ができているのか。

(回答) 事務局

沖縄については、180%の流通量で対応したわけではないので状況が違う。

松戸の麻しん発生については局地的であったので、ワクチンの不足には至らなかったが、状況によって国へワクチン供給について要望する体制はある。

(質問) 黒崎委員

沖縄のようにどの県でもワクチンは入荷できる、ということか。

(回答・意見) 新委員

平成28年度に松戸で麻しんが流行した際に定期接種前の1歳未満児にワクチンを接種すべきか医師会、国立感染症研究所の専門家等と協議、検討した。

その際、国に要求すればワクチンを入手できる、とのことだったが、流行状況をふまえて、まだ1歳未満児にワクチンを接種する段階ではない、と判断した。

しかし、1歳以上のワクチン接種を強化していく上で本当にワクチンは足りるのか、と

ということが改めて心配になり、県、国に確認したところ、全国的な流行ではなく局地的な流行の際はワクチンを優先的に供給できる、ということであった。そのため、ワクチン接種を強化しても十分に対応できるとの認識を持てた。

また、今年度についても、先ほど話にあった180%の供給量での対応という点で問題にはならなかったが、県内の他の圏域でワクチン入手が厳しい、というような情報も入ってきたため、県にも確認し、千葉県として十分に対応できる流通量だとの回答を得た。

こういった状況からその都度、事例ごとに調整、確認をしながら対応していくしかないと考えている。

(意見) 西牟田委員

地域的に流行が起こった際のワクチンの量は、とてつもなく多くなることが考えられる。今後、受けていない人のワクチン接種をしっかりとやっていくとなるとワクチン量がどうなのか、という印象をぬぐえない。

この点については、県もしっかりと体制について考えていただきたい。

○意見・質疑応答 風しんの発生状況と対策について

(意見) 西牟田委員

資料1によると、抗体検査を受けた方のうち、25%は抗体価が低い。そのうちワクチンを接種しているのが60%ぐらい。この部分が今後、5期接種を開始してどのくらいしっかり受けていただけるのか、これが重要になると思われる。

(質問) 馳委員

風しん抗体価が低いにもかかわらずワクチンを接種したのは60%程度の方だということだが、今後、多くの方に受けていただくためには理由の分析が大切ではないかと思う。

具体的には、どういった理由によりワクチン接種を受けない方が多いのか。

予防接種は無料ではないから、という理由か。あるいは別の理由か。

(回答) 事務局

全てを把握しているわけではないが、女性については検査後、妊娠が判明したという方やスケジュール調整が難しいという方、あるいは金銭的な理由、というのがおおまか

なところである。

県には、ワクチン接種を実施したか、しなかったか、という報告が届くが、実施していない方にはフォローアップとして電話等で状況を確認している。

これらについては、また、別の機会に報告させていただきたい。

(意見) 馳委員

抗体検査を受ける方は、意識の高い方だということなので、工夫をすればワクチン接種率の向上に結び付くのではないかと、という印象を受けた。

(意見) 新委員

風しん対策は、麻しん対策と異なり、先天性風しん症候群がどのくらい出てくるのか、ということが大きなポイントとなる。麻しんも風しんも保健所の接触者対応の負担が大きくなってきている中で、風しんについては特に妊婦周辺の調査対応、先天性風しん症候群のサーベイランスが重要となってくるのでこういった情報をしっかり教えていただきたい。

(意見) 西牟田委員

そのとおりだと思う。5期が始まるが、今までやってきたことをもっと効率的に生かす方法を考えていくことが大切である。また、抗体検査を受ける方は無料であるので多くなることが予想され、それはいいことであるが、その先にあるワクチン接種率の向上という点、例えば忙しい方たちが受けやすい体制整備などが一つの課題だと思われる。

現在、集合契約を自治体と進めているところである。

○その他

(質問) 馳委員

麻しん対策には様々なポイントがある中で、病院では、医療従事者から感染を広げることが無いように力を入れているところである。

先日、救急隊員が感染したという事例があったが、関係者と話す機会があり、救急隊員のインフルエンザやB型肝炎のワクチン接種率が高くないという話を聞いていた。

そのため、麻しんや風しんについてもワクチンを接種していない方も少なくはないだろう、との印象を持っていた中で今回の事例を耳にした。

今後、救急隊員の感染対策について考えるうえで、県では、具体的にはどのようなアプローチ方法があるのか。

(回答) 事務局

今回の事例発生を受けて、県の消防を管轄している部局、防災管理部と協議し、県下31の消防本部に対して、ワクチン接種や接種歴等の把握の必要性について文書を発出した。今後、状況を見ながら追加的対策等についても検討していきたい。

(意見) 馳委員

今回、千葉県でこういった事例が起きてしまったが、全国で状況は同じであり、今回の経験を教訓として、しっかりと対応して頂きたい。

(意見) 西牟田委員

とても重要なことである。救急隊員という仕事をされている方については、しっかり予防対策を実施していただきたい。

8 閉会 午後7時32分